50th Anniversary
NIPPON INSTITUTE OF TECHNOLOGY
日本工業大学 設立50周年

日本工業大学 通信
NIPPON INSTITUTE OF TECHNOLOGY
第208号

編集・発行
日本工業大学
広報室
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
☎(0480)34−4111(代)
http://www.nit.ac.jp

平成29年（2017年）8月1日発行

第10回学園協議会開催

大学設立50周年 学園創立110周年の節目 ブランド力向上を目指す

7月1日（土）午後2時より、日本工業大学学友会館にて「第10回学園協議会」が開催された。

学園創立110周年の節目となる今年の協議会には、柳澤理事長、成田学長、大塚校長をはじめ、学園の外郭団体の会長、副会長、法人関係者、中学・高校並びに大学教職員等120名が出席した。

協議会は、藤田学園事務局長の「開会の辞」に続き、成田学長の挨拶、柳澤理事長の挨拶・講演が行われた。

成田学長は「大学は今年設立50周年を迎え、これまでに3万8000人余の卒業生を輩出した。これは偏に諸先輩方の努力の賜物であり、心より敬意を表する。また、大学は来年度、これまでの単一学部体制から複数学部体制に改組することが、昨日、正式に決定した。大学はまさに全学をあげ、全力で来年度学生募集に取組んでいく」と決意を述べた。

学長挨拶に引き続き、柳澤理事長の挨拶並びに講演が行われた。冒頭で過去に行った「理事長講演」を振り返り、平成27年の講演「学園強靭化プロジェクト」について、その内容をお浚いした。「学園強靭化プロジェクト」は、教学運営の強靭化と管理運営の強靭化が目的であり、現在、5か年での完了に向け、確実に進捗している」との挨拶があった。

引き続き『学園再生』というテーマで講演が行われ、『学園再生』の柱は、大学を中心とした学園ブランド力の向上である。大学は複数学部への改組、応用化学科を新設することによる工学教育の守備範囲の拡大、高校については、大学のブランド力をサポートするハイレベルの進学校を目指すことがその基本である。学園の工業教育の伝統は、大学に発展的に継承されていることを認識して、学園の中での高校・中学の位置づけをしっかり考えていかなければならない。さらに学園内外の厳しい状況を直視し、自らの状況を謙虚に受け止めることが学園再生にとって不可欠である」と締め括り、学園改革に真摯に、取り組んでいかなければならないと参加者一同決意を新たにした。

この後、大学設立50周年記念建設事業で竣工したさくらプラザ等を見学し、学園協議会は盛会裏のうちに閉会した。

50年目を迎えた宮代キャンパス（主要部）。

50周年記念建設事業第2期工事
新講義棟建設を着工
高さ36メートルで7階建、数十人規模から300人規模まで多数の講義室のほか、各種学修支援関連機能を備える。
2018年12月竣工予定。

柳澤理事長による講演

ISO定期サーベイランス審査報告

EMS活動は維持向上 学生の環境活動が高評価

5月16・17日の2日間に渡り、ISO14001のサーベイランス審査を受審した。審査のポイントは次の3点であった。①EMS活動の規格（2004年版）通りの運用（PDCAサイクルで運用されているか）②内部監査の実施。③法規制の順守。また、学生の活動が外部機関から表彰されたこともあり、学生環境推進委員会へのインタビューも行われた。特筆すべき評価は次のとおり。「力量、教育訓練及び自覚」では、平成14年から続く後援会支援による「環境分野研究奨励助成金制度」で初めて学生が研究代表者として採択され、計画・実施・分析及び発表と一連の流れを経験し、「コミュニケーション」では、久喜宮代衛生組合「ごみを減らしてきれいな街づくり表彰／資源リサイクル推進団体部門」において学生環境推進委員会の活動が「最優秀賞」を受賞した。「運用管理」では、大学設立50周年記念建設事業（第1期工事）で水害対策として、クラブ棟地下に貯水槽（1000立方メートル）を設置。また、新食堂ダイニングホールにはスタディカフェを整備し、教育環境改善に配慮。他、LED、高効率空調、緑化の推進などを行った。「緊急事態への準備及び対応」では、キャンパス内から廃棄物として出た特定管理産業廃棄物である低濃度PCB2413キログラムの全処理が完了し、環境リスクを除去（高濃度PCBは2017年度11月頃に処理予定）。一方、「法的及びその他の要求事項」「不適合並びに是正処置及び予防処置」「内部監査」については改善の余地が指摘された。これらの改善については、ISO14001規格改訂（2015年版）によって事業活動との整合性を求められていることを踏まえ、サステイナブルキャンパスとしてさらに充実が図れるよう「環境推進委員会」において検討していく。総合結果として、本学のEMS活動は維持向上しているとの評価があり、6月28日に「登録証」を受理した。

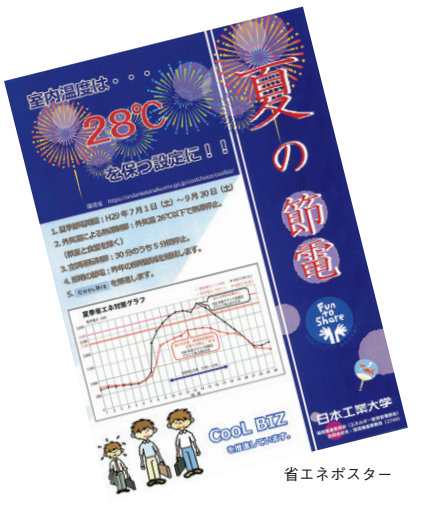
学生環境推進委員会へのインタビュー

2017年度夏季節電への取り組み

照明のLED化により電力使用量を大幅削減へ

2016年度の省エネ実績は、学生・教職員の協力と学友会館、E1棟（機械工学科実験研究棟）、14号館（情報工学科実験研究棟）の照明LED化の効果によって、前年度比が電力で6・41%の削減を図ることができた。一方、都市ガスは実験研究設備の連続実験による空調機の運転時間が増加したため0・88%の微増となった。また、埼玉県地球温暖化対策推進条例（CO2排出削減目標値：基準年比▲15%）に対しては、電力・ガス一体で21・9%の削減を図っている。

今夏は引き続き本条例の順守とISOエネルギー使用目標値（基準値比▲20%）を達成するため、次の省エネ活動に取り組んでいる。①省エネポスターの募集と掲示②空調の中間期完全停止③外気温度による空調運転制御④棟別に30分間の内、5分間の空調遠隔停止などを実施。この他、設備の省エネ改善として、E10・E11棟（機械工学系使用）の照明器具をLED化し、棟内電力使用量の約▲50%を節電する計画である。この他各部門が掲げた省エネの運用管理徹底を行い、サステイナブルキャンパスの充実に向け活動を計画している。



省エネポスター

日本工業大学設立50周年記念事業
日本工業大学卒業教職員の集い 特別講演会
国立科学博物館 理工学研究部
科学技術史グループ グループ長
鈴木一義氏講演会
「日本のモノづくりの先へ」

11/3(祝) 10:30-12:30(10:00開場)
日本工業大学宮代キャンパス 学友会館
お申込み、詳細は本学ホームページ「日本工業大学50周年記念サイト」をご覧ください。

日本工業大学設立50周年記念事業
2014年 ノーベル物理学賞受賞
中村修二教授講演会
「高効率青色発光ダイオードの発明とその後」

10/19(木) 11:00-12:30(10:15 開場)
日本工業大学宮代キャンパス 体育館
お申込み、詳細は本学ホームページ「日本工業大学50周年記念サイト」をご覧ください。在学生は申込不要。

学生自治会主催行事

体育祭で新入生が交流 テーマは「TRY」

6月3日、体育祭実行委員会主催の体育祭が本学陸上競技場で開催された。今回は第50回の記念大会となるが、それを祝うかのような晴天に恵まれ、多くの新入生が参加した。

今年のテーマは「TRY」。より多くの新入生に体育祭へ参加してもらい、積極的に競技種目に挑戦して欲しい。そして何事にもトライする気持ちを持ってほしいとの主催者側の強い思いが込められている。

開会式では成田学長より、「第50回という節目の大会であり、大いに楽しんで盛り上げてもらいたい」と歓迎と激励の挨拶があった。

チーム分けは参加受付時に行うため、自分のチーム内には顔見知りの学生は数えるほどしかいない。そのためかチーム毎に整列する開会式では緊張した面持ちで並んでいる学生が数多く見られた。しかし、種目をこなすごとに、少しずつ緊張がほぐれて行き、最後の種目では全員が心の底から体育祭を楽しんでいるようであった。

大学生活がスタートして約2カ月が経過し、新生活にも慣れ、多くの友人ができたことと思うが、大学生活は始まったばかりである。体育祭をはじめ学校行事は、他学科の学生と知り合うことのできる数少ない機会である。ぜひ学校行事には積極的に参加し、さらに多くの友人を作ってくれることを期待している。

毎年白熱する綱引き

留学生交流ツアー&交流会

箱根・熱海を満喫

本学在籍の外国人留学生を対象に、日本の歴史や文化を学ぶことを目的として、今年度は5月20、21日に箱根・熱海方面へツアーを実施した。それに先立つ5月9日には大学で箱根火山や大涌谷の形成、参勤交代と大名行列に関する歴史や文化等について学んだ。

ツアーの1日目は箱根彫刻の森美術館を見学し、箱根神社を参拝。その後芦ノ湖で遊覧船に乗り、大涌谷を散策した。

2日目は、熱海のサンビーチで海を眺め、柿田川湧水公園では富士山の綺麗な水に触れた。

2日間天気に恵まれ、現地で歴史や文化を肌で感じることができた。

また、6月27日には毎年恒例となった留学生交流会がダイニングホールで開催された。

交流会は本学に在籍する留学生、外国人学生そして日本人学生の親睦を深めることを目的としている。参加した学生は約100名にのぼり、大学からは学長をはじめとする教職員や、地元宮代町の「国際交流みやしろ」から数名が参加し、盛大な懇親会となった。毎年参加者にお土産として、同町の国際交流団体である「宮あじ会」寄贈のお米が手渡された。

大涌谷で記念撮影

専門職大学院だより

「働き方改革」に思う

大学院技術経営研究科　教授　浪江　一公

私は30代初めの米国留学中の夏休みの2ヶ月間、米国西海岸にあるエレクトロニクスメーカーでサマーインターンをした経験があります。この企業は当時も今もその分野では世界的に名の知れた企業で、革新的な製品を継続的に創出し、収益率も大変高い優良企業です。しかし、定時の5時を過ぎるとオフィスには人っ子一人いなくなり、それは見事な程でした。

一方、私がそれ以前に勤務していた日本のエレクトロニクス企業では、毎日9時、10時までの残業は当たり前でした。しかし、同社はこのような社員の長時間労働にもかかわらず2000年代の初めに業績が大きく下降し、その為にリストラを強いられ、当時の私の同僚や先輩の多くが会社を去りました。

現在安倍政権の下、「働き方改革」が進められています。この政策の背景には、日本の生産人口の減少に対する女性活用の必要性があり、仕事を効率的に処理し残業のない労働環境を作り、女性の就労を促進しようという狙いがあります。

私は、この「働き方改革」には大賛成ですが、上の私自身の経験から、単に仕事の効率化だけではなく、更に一歩進めてその中身の改革の必要性を強く感じています。その改革の必要性は限られた時間の中で、クリエイティブな活動により多くの時間を割くことです。その為にはどうしたらよいか?それは仕事の仕方ではなく、その仕事が生み出す価値に目を向けることです。自分自身の仕事を見直すと、実際には従来からやっているという理由だけで続けている価値の低い仕事は多いものです。従って、創出価値の視点から仕事を見直し、低価値の仕事は大胆にやめ、一方で高価値の仕事に時間とエネルギーを振向ける必要があります。一般的には、価値の低い仕事の割合は、3~4割はあるのではないでしょうか?

先日、業界に先駆け「働き方改革」を進めている企業の若い研究者の方と話をする機会があり、その方はこのような動きを好意的に捉えていました。日本の企業や組織で、上のような視点からも「働き方改革」が実行されることを願っています。

専門職大学院 オープンキャンパス

パネルディスカッション　キャンパスツアー
説明会　模擬授業 等を予定

2017　10/21(土)　12/9(土)
2018　2/3(土)

※各日とも13:00開始予定
※詳細はWEBサイトへ http://mot.nit.ac.jp/

お問い合わせ先
日本工業大学 専門職大学院
TEL.03-3511-7591　Mail: mot@kanda.nit.ac.jp

就職支援情報

東北UIターン企業セミナーを初開催

近年、「地方創生」を政策として挙げる中、Uターン、IターンへのUの関心が高まっている。少子高齢化や首都圏一極集中が進む中、地元を離れ都内やその近郊の大学に進学した学生達に対し、地方に就職をして地域活性化に繋げてもらいたいとの期待によるものだろう。そこで6月10日、本学ではキャリアデザイン・菊地信一教授の協力のもと「東北U・Iターン企業セミナー」を青森(1社)、宮城(2社)、福島(3社)、岩手(1社)の計4県7社の参加を得て初めて開催した。参加学生は1年生から4年生まで計19名。企業の紹介、地元で働く魅力や就職活動に対する交通費の援助、奨学金に対する助成などについての情報紹介があった。Uターン就職希望者は、まず、家族と十分な話し合いをした上で、地元に就職するかどうかの意思決定を早めにしておくことが重要。さらに、就職支援課に足を運び求人情報をつかんでおくことをお勧めする。

保護者のための就職ガイダンス

個別就職相談会

対象　学部4年生、大学院2年生の未内定の学生の保護者
日時　2017年10月7日(土)　9:00~16:00
場所　日本工業大学　就職支援課

対象の皆様には、9月上旬にご案内をお送りいたします

お問い合わせ先
日本工業大学　就職支援課
TEL:0480-33-7510　FAX:0480-33-7562
E-mail:syusyokuka@nit.ac.jp

工業技術博物館記念講演会・総会

戦後の産業技術と日本技術の特徴

6月23日の午後、学友会館で工業技術博物館と同後援会の春季特別講演会と第27回後援会総会が開催された。

特別講演会では、元通商産業省(現経済産業省)審議官で、北九州市産業技術保存継承センターの設立に携わり館長も務め、また国立科学博物館の産業技術史資料情報センターでの系統的調査研究に準備段階から関わり、現在も同館の重要科学技術史資料選定委員である寺西大三郎氏を招き「戦後の産業技術と日本技術の特徴」という題目で講演が行われた。

今回も産学連携起業教育センター、NITEC埼玉産学交流会等との共催で、後援会会員、理事長等本学幹部、機械工学科の学生に加えて、金融機関や企業からも参加があり盛況であった。

講演内容は、産業技術の歴史的保存継承活動との出会いから始まり、戦後の産業技術の変遷と日本技術が世界的に評価されるに至った時代的要因、日本の技術の特徴・個性とそれをもたらした各種要因、日本技術の未来への期待(変化への対応)で構成され、豊富な資料や写真を用いて詳細かつ平易に説明があり、技術者の育成や学生の進路決定、博物館の運営にも大いに参考になることが多かった。

総会では、高山一成後援会長の挨拶、博物館の近況報告に続き、後援会の平成28年度の事業・決算報告、29年度の事業・予算案が審議され、原案通り承認された。

その後開催された茶話会には、柳澤理事長等の出席も得て、寺西氏の講演、初参加で博物館を訪問された方々の感想、博物館の今後の運営等を話題に、なごやかな懇談が持たれた。

講師の寺西氏

コンテストの参加者募集中!

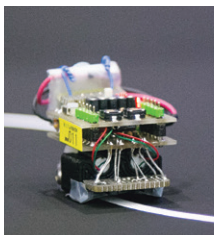
第9回3D-CADプロダクトデザインコンテスト

エントリー締切 8/26　結果発表表彰式 10/29

3次元CADを駆使し、斬新かつ独創的なアイデアをコンピュータ上で表現してください。対象は高校生で、テーマ、CG、自由の3部門。優秀作品は加工して展示後、お渡しします。

作品送付先/お問い合わせ先
3D-CAD プロダクトデザインコンテスト事務局　長坂保美
TEL:0480-33-7619　E-mail:nagasaka@nit.ac.jp
https://2c-laboratory.sakura.ne.jp/pdcontest/

第11回 マイクロロボコン高校生大会



エントリー締切 10/31　開催日 12/23

約1インチサイズの小型ロボットによるライントレース競技です。初心者でも競技参加しやすいようノビス部門も設置しています。全員完走を目標に、今夏も学内外で講習会を実施します。

エントリー/お問い合わせ先
創造システム工学科　秋元俊成
TEL:0480-33-7716(学科事務室)　E-mail:akimoto@nit.ac.jp
http://ise.nit.ac.jp/mrc.html(エントリーはHPから)

第31回 建築設計競技

提出期限 8/31　入賞発表 9月上旬

建築を学ぶ高校生を対象とした建築設計の腕試しの場として、また本学建築デザイン学群の設計教育活動の一環として、毎年開催しています。今回の課題は「風景を開く家」です。

作品送付先/お問い合わせ先
建築設計競技委員会
TEL:0480-33-7681　E-mail:kenchiku-compe@nit.ac.jp
http://nit-kenchiku.jp/activities/

第51回教育改革シンポジウム開催報告

「学生の意欲を高める授業設計」

6月15日、東京学芸大学教授の森本康彦先生を迎え「学生の意欲を高める授業設計」に関する講演を開催した。夕刻の開催にもかかわらず、約150名の多くの教職員が参加した。

森本氏の話は、学生の主体的な学びをどのように引き出すのか、そもそも教育や学習とは何なのか、そのために教員は学生とどう向きあうべきなのかといった趣旨であった。森本氏の答えは「学ぶ」ということは、学生の能動的作業であり、教員からの一方的な教えでは到達し得ないこと。教育とは、教員の教えたい気持ちと、学生の学びたい気持ちとの共感であるということであった。

講演後に3名の本学教員が講師を囲んで講演を振り返った。講演内容を実際の授業経験に落とし込んで振り返ることにより、一層理解を深めることができたと考える。

また当日は、埼玉県立大学の萱場学長も臨席し、講評をいただいた。

非常に力のこもった説明だったため、参加された教職員の受け止め方はさまざまだったのではないかと感じる。教育は多様なもので統一解は存在しない。参加した教職員のそれぞれの立場において教育を考える機会となれば、この講演会は成功であったと考える。

平成29年度出前授業プログラム

昨年度は99回実施 3801名が受講

平成28年度の出前授業は、小・中学校や高等学校が希望申込み方式で行われ、実施回数は99回、受講者数は3801名であった。

平成29年度の出前授業プログラムは、例年同様に全国の工業高等学校をはじめ多くの普通科高等学校及び高大連携校に5月に配布した。昨年と大きく違う点は、大学設立50周年にあたり学部改組にあわせ、入学者を意識した出前授業プログラムを下表のように計113テーマ用意した。内容も各学科の専門性を生かし、生徒達の疑問に答えるものである。特に高校生が工学や理学の世界に興味を持ち、その世界に導かれるよう工学技術を分かりやすく説明している。多くの学校で活用されることを期待している。

学科（平成30年度から）	テーマ数	テーマの一例
機械工学科	20	「素朴な視点で地球の未来を切り拓く」
電気電子通信工学科	15	「アンテナの世界（身の回りの電波について）」
応用化学科	13	「原子約1万個で作ったピラミッド」
ロボティクス学科	11	「ロボット技術の医療・福祉応用」
情報メディア工学科	18	「本人認証～ひとそれぞれが持っているもの～」
建築学科（建築コース）	13	「ピラミッドやオベリスクの設計方法」
建築学科（生活環境デザインコース）	6	「高齢者と歩きと環境」
共通教育系等	17	「ミクロの世界の謎に迫る」

新学部学科説明会開催 全国58校の教諭が参加

5月26日、高等学校教諭を対象として、新学部学科説明会が開催された。これは平成30年度に予定されている新学部学科改組に向けて、例年の入試説明会に代えて実施したもの（秋にも開催予定）。

当日は、近隣の高等学校のみならず北海道、青森県、徳島県、山口県から58校、60名が参加した。

はじめに、ベネッセグループ、株式会社進研アド、仁科祐一氏による基調講演「平成29年度入試の振り返りと志望校選びの新しい視点」を実施。10分間の休憩をはさみ、神野教務部長による、来年度からの新しい学びと新学部学科の紹介。さらに丹澤入試室長による、来年度入試の概要についての説明を行った。

その後は、電気電子工学科1年小橋川ケイジさん、機械工学科4年蓼沼美波さんによる体験報告、3月に完工したばかりのダイニングホールを出発し、学内をほぼ一周する施設見学と続いた。

最後は、LCセンター1階のオープンスペースに場所を移し、新学科ごとに席を設け、参加者と新学科の教員での個別相談・情報交換を行った。また、在籍している参加校の卒業生も駆けつけ、母校の教諭に近況を報告するなど、盛況なうちに終えることができた。

成田学長の挨拶

ライブラリカフェ

7月7日（金）LCセンターにて「第9回ライブラリカフェ」が開催された。今回は情報工学科の大山麻里先生を迎え、「映像はスクリーンを飛び出す＆日工大CMの秘密」と題し、日工大CMについて、撮影の技術解説等の講演があった。続くカフェでは参加者30名がコーヒー片手に先生との会話を楽しんだ。

オープンキャンパス

6/4(日)に今年度第1回を開催

6月4日(日)、オープンキャンパスが開催された。当日は、大勢の高校生や保護者の方が参加。平成30年4月からの新学部学科紹介や授業体験、個別進路相談会、保護者説明会、女子向けプログラムなどが好評だった。

新学部・学科オープンキャンパス

8/5(土)・6(日)

8/19(土)　9/10(日)

■各開催日とも11時開始（ランチ付き）　■無料バスを運行
■事前に申し込まれた方にプレゼントを差し上げます

お問い合わせ・お申込み先：日本工業大学 教務部入試室
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
0120-250-267　E-mail：nyu-shi@nit.ac.jp
URL：www.nit.ac.jp

詳細は本学 WEB サイトをご覧ください

平成30年度入試概要

・各入試の詳細は、それぞれの「募集要項」でご確認ください。　・エントリー、申込、出願等にあたっては、締切日必着とします。

入試名称	併願の可否	内容	日程				
特別奨学生入試	第1期 単願 第2期 併願可	奨学生には、1年次の授業料の全額（98万円）または半額（49万円）を免除 **第1期** ・書類審査および面接による選考 ・特待生制度あり **第2期** ・筆記試験、調査書および面接による選考 ・検定料割引制度あり		第1期		第2期	
			申込期間	9/14(木)～ 9/25(月)			
			面接日と面接会場	9/30(土) 本学			
			内定日	10/ 5(木)			
			出願期間	10/ 6(金)～10/16(月)		1/ 5(金)*～1/19(金)** ＊インターネット出願は12/20(水)から利用開始。 **1/20(土)・22(月)も窓口受付。	
			試験日と試験会場			1/29(月)～2/ 1(木)* 本学 *1日を選択。	
			合格発表日	10/26(木)		2/ 9(金) 16:00	
			入学手続締切日 第1回	11/ 7(火)		3/12(月)	
			入学手続締切日 第2回	1/23(火)			
専門高校入試（S 工業科）	併願可	・書類審査および面接による選考 ・工業科の生徒を対象 ・国公立大学等との併願に最適	申込期間	9/14(木)～ 9/25(月)			
			面接日と面接会場	9/30(土) 本学			
			内定日	10/ 5(木)			
			出願期間	10/ 6(金)～10/16(月)			
			合格発表日	10/26(木)			
			入学手続締切日	1/23(火)			
専門高校入試（B 工業科）	併願可	・書類審査および面接による選考 ・工業科の生徒を対象 ・公募制		第1期		第2期	
			出願期間	11/ 1(水)～11/ 9(木)		11/28(火)～12/11(月)	
			面接日と面接会場	11/18(土) 本学		12/16(土) 本学	
			合格発表日	11/30(木)		12/21(木)	
			入学手続締切日 第1回	12/14(木)		1/23(火)	
			入学手続締切日 第2回	1/23(火)			
AO入試 AOエントリー入試 AOコーディネータ入試	併願可	**AOエントリー入試** ・適性評価（面談・提出課題）および書類審査（エントリーシート・調査書）による選考 **AOコーディネータ入試** ・書類審査および面接による選考		第1期	第2期	第3期	第4期
			AOエントリー入試 エントリー期間	8/1(火)～8/3(木)	9/6(水)～9/13(水)	10/31(火)～11/8(水)	1/26(金)～3/1(木)
			AOエントリー入試 面談日	8/5(土)・6(日)・18(金)・19(土)	9/10(日)・16(土)・30(土)	11/11(土)・25(土)	書類受理後に連絡
			AOエントリー入試 内定日	8/26(土)	10/5(木)	11/30(木)	3/6(火)まで
			コーディネータ入試の申込期間	8月1日(火)～平成30年2月22日(木)まで、随時受付			
			出願期間	9/1(金)～9/6(水)	10/6(金)～10/16(月)	12/1(金)～12/11(月)	2/24(土)～3/9(金)
			選考	書類審査等			
			合格発表日	9/12(火)	10/26(木)	12/21(木)	3/16(金) 16:00
			入学手続締切日 第1回	9/26(火)	11/ 7(火)	1/23(火)	3/23(金)
			入学手続締切日 第2回	1/23(火)	1/23(火)		
一般推薦入試（公募制）	併願可	・書類審査および面接による選考 ・専門高校（工業科）以外の生徒を対象 ・公募制		第1期		第2期	
			出願期間	11/ 1(水)～11/9(木)		11/28(火)～12/11(月)	
			面接日と面接会場	11/18(土) 本学		12/16(土) 本学	
			合格発表日	11/30(木)		12/21(木)	
			入学手続締切日 第1回	12/14(木)		1/23(火)	
			入学手続締切日 第2回	1/23(火)			
一般入試	併願可	・筆記試験および調査書による選考 ・試験教科・科目は、一般入試Aは数学・理科（物理、化学、生物から1科目を選択）・英語の3教科。一般入試Bは2教科を選択。 ・検定料割引制度あり		一般入試A		一般入試B	
			出願期間	1/5(金)*～1/19(金)** ＊インターネット出願は12/20(水)から利用開始。 **本学会場のみ1/20(土)・22(月)も窓口受付。		2/ 2(金)～ 2/14(水)	
			試験日 ・4日間から選択（複数日受験可）	1/29(月) 本学・東京・郡山・柏・富山 1/30(火) 本学・東京・水戸・宇都宮 千葉・横浜・長野 1/31(水) 本学・東京・仙台・高崎 新潟・静岡 2/ 1(木) 本学・東京		2/20(火) 本学・東京	
			合格発表日	2/ 9(金) 16:00		2/26(月) 16:00	
			入学手続締切日	2/20(火)		3/9(金)	
センター利用入試	併願可	・平成30 年度大学入試センター試験で、本学が指定する教科・科目の成績および調査書による選考 ・検定料割引制度あり		センター利用入試A	センター利用入試B	センター利用入試C	
			出願期間	1/5(金)*～1/29(月) ＊インターネット出願は12/20（水）から利用開始。	2/2(金)～2/14(水)	2/24(土)～3/9(金)	
			センター試験実施日	1/13(土)・14(日)	※本学での個別学力試験等は実施いたしません		
			合格発表日	2/9(金) 16:00	2/26(月) 16:00	3/16(金) 16:00	
			入学手続締切日	2/20(火)	3/9(金)	3/23(金)	
3月入試	併願可	・書類審査、面接および小論文による選考	出願期間	3/ 5(月)～3/13(火)			
			試験日と試験会場	3/15(木) 本学			
			合格発表日	3/19(月) 13:00			
			入学手続締切日	3/23(金)			

・専門高校入試（A 工業科）および一般推薦入試（指定校）については、2018受験ガイドおよび募集要項をご確認ください。
・お問い合わせ先：入試室　TEL 0120-250-267

本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生　募集
（日本工業大学大学院　社会人特別選抜）

◆大学院工学研究科（博士前期課程・博士後期課程）

＊環境共生システム学専攻　＊機械システム工学専攻
＊電子情報メディア工学専攻　＊建築デザイン学専攻

■平成30年度　大学院　社会人特別選抜入試日程

	日程			
	出願期間	面接試験	合格発表	手続締切
一次募集	平成29年9月21日～9月26日	10月 5日	10月14日	平成30年1月26日
二次募集	平成30年2月14日～2月21日	2月28日	3月 7日	平成30年3月12日

お問合せ先：教務部教務課　大学院入試係
TEL　0480-33-7507　URL　http://www.nit.ac.jp

機械工学科4年　長尾健吾君
二輪レース「ピレリカップ」総合優勝に向け快進撃

機械工学科4年（二ノ宮研究室）の長尾健吾君が国内二輪レース「ピレリカップ600チャレンジシリーズ」に自らチームを率いて参戦し、第1戦（4／9もてぎ）で1位、第2戦（5／20鈴鹿）で2位、第3戦（6／4岡山）で1位と健闘を続けている。

シリーズは国内5サーキットを転戦しながら年間全8戦で争われ、うち5戦の有効ポイントで年間チャンピオンを決定。優秀選手に海外での活躍機会を与えることを目的としており、チャンピオンは翌年のワールドスーパースポーツ（WSS）の1戦にワイルドカードで招待される。

特に第1戦では2位以下を大きく引き離す独走状態で勝利。長尾君は「結果は独走での優勝でも、難しいレースであったことは間違いなく、優勝は素直に嬉しい。大学の卒業研究とレースの両立は大変だが、レースを理解してくれている研究室の方々、レースをサポートしてくれている方々に感謝の気持ちを忘れず、次戦以降も全力で頑張りたい」と静かに闘志を燃やす。その言葉通り第2、3戦と快進撃を続けており、今シーズンの総合優勝、さらにはWSSへの出場が期待される。

表彰式で賞金を手にする長尾君（中央）

建築学科4年　奥津ノンナパットさん
ドラゴンボートでアジア競技大会出場へ

建築学科4年（三坂研究室）の奥津ノンナパットさんが所属するチームが4月15日、第18回アジア競技大会ドラゴンボート派遣選考会（女子種目）において勝利し、日本代表として同大会への出場を決めた。ドラゴンボートは中国由来の幅が狭く長いボートで龍の頭と尾の装飾があり、大太鼓が載っているのが特徴。

選考会は太鼓手1名、漕ぎ手10名、舵取り1名の10人艇で行われ、奥津さんは漕ぎ手を務めた。奥津さん所属のチームは社会人と学生の混成であるのに対し、相手はトップクラスの選手を揃えた選抜チーム。苦しい展開が予想されたが、結果は5戦全勝であった。

奥津さんは高校時代にレーシングカヌーに取り組んでいたが、本学入学後に同チームに所属し、ドラゴンボートに転向。日曜日のチーム合同練習のほか、朝は体育館2階のトレーニングルーム、夜はアルバイト先のジムで自主トレーニングを日々重ねてきた。大会出場に際し「膝の怪我で苦しんだ時期もあったが、アジア大会に向けて鍛え直し、全力で挑みたい」と熱く語ってくれた。

（選考会とは別の）奥津さんの競技の様子（最後尾手前）

幸手市の観光事業に協力　サイクリングマップ完成

本学と包括的連携協定を締結している埼玉県幸手市の「幸手にぎわいの街プロジェクト事業」に本学学生が参加。サイクリングマップ『さちぽた』の制作に協力した。

本学学生6名が3グループに分かれて市内を自転車で巡りながら調査を行い、観光地としての魅力を学生目線で整理。主要観光地の紹介と、それらを巡る3ルートの提案を行っている。マップは6月から同市関連施設のほか、本学本館ロビーで配布している。

製作の中心となった若佐谷君、根本さん、林君（左より）

工友会総会
会長に土井嘉豊氏が再任

6月24日、一般社団法人日本工業大学工友会定時総会が学友会館ホールにて開催された。

議事は、平成28年度事業・収支報告、平成二九年度事業計画案・収支予算案、理事および監事選任について審議され、全ての議案が承認された。

また、地域支部および学科支部代議員の一覧が報告された。

本定時総会の途中の臨時理事会にて、会長（代表理事）に土井嘉豊、副会長に大島敏正、横山賢二、事務局長に清水博幸が選定され、それぞれ就任した。

NITクリエイト株主総会
社長に原隆之氏が再任

定時株主総会は5月27日に開催された。

最初に原隆之社長より、当期の事業経過と決算内容に関する報告があり、質疑応答を経て満場一致で承認された。

続いて、任期満了に伴い取締役6名が選任（内5名重任）され、社長には原隆之氏が再任された。原社長は「学生ファーストの業務運営を心がけ、大学設立50周年の節目に恥じぬよう、あらたな気持ちでこの一年間、代表取締役を務めさせていただく」と決意表明を行い、株主総会を締めくくった。

宮代会総会
会長に竹中哲喜氏が再任

7月9日、静岡県の焼津グランドホテルにおいて宮代会の総会が開催された。

当日は全国から25名の会員が出席。議事は慎重審議の上、全て了承された。会長には竹中哲喜氏（第38代後援会長・埼玉）が再任された。

総会で挨拶する柳澤理事長

人事異動

【配置換】（7月1日付）
◆山浦登志夫事務職員→法人本部に異動

【解任】（6月30日付）
◆山浦登志夫　企画室長・学長補佐・システム管理室長兼務・生涯学習センター長兼務

国外出張

◆劉雯准教授（共通教育系）／出張先＝中国（5／9～5／12）／目的＝2017年中国・成都アジア教育フォーラム参加
◆佐々木誠教授（建築学科）／出張先＝台湾（5／11～5／14）／目的＝全国23校空間設計連合展覧会における招待による共同講評
◆呉志良教授（留学生別科）／出張先＝中国（6／2～6／11）／目的＝協定校の上海交通大学昂立新日語へ留学フェアに参加等
◆加藤史仁准教授（機械工学科）／出張先＝台湾（6／17～6／23）／目的＝センサー・アクチュエータ・マイクロシステムに関する国際会議での研究発表
◆黒津高行教授（生活環境デザイン学科）／出張先＝ネパール（6／17～6／27）／目的＝ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業に伴う調査
◆西本真一教授（建築学科）／出張先＝ネパール（6／17～6／27）／目的＝同前
◆平栗健史教授（電気電子工学科）／出張先＝モンテネグロ（6／26～7／2）／目的＝2017年IEEEアドホックネットワーク国際会議にて研究発表
◆渡部修一教授（創造システム工学科）／出張先＝タイ（6／27～7／1）／目的＝KMUTTにおいて招待講演
◆竹本泰敏助教（電気電子工学科）／出張先＝中国（7／3～7／8）／目的＝電気工学国際会議2017にて研究発表
◆木村貴幸准教授（電気電子工学科）／出張先＝スペイン（7／3～7／9）／目的＝2017年メタヒューリスティクスに関する国際会議での研究発表
◆古閑伸裕教授（機械工学科）／出張先＝台湾（7／6～7／10）／目的＝JASSO主催台湾留学フェアにおける学生募集活動
◆平栗健史教授（電気電子工学科）／出張先＝アメリカ（7／8～7／15）／目的＝2017年IEEEアンテナと伝搬システムの国際会議にて研究発表
◆生駒哲一教授（情報工学科）／出張先＝中国（7／10～7／14）／目的＝第20回情報融合に関する国際会議2017にて研究発表
◆竹村暢康准教授（電気電子工学科）／出張先＝アメリカ（7／10～7／15）／目的＝米国電気電子学会アンテナ・伝搬国際会議における研究発表
◆神林靖准教授（情報工学科）／出張先＝カナダ（7／11～7／16）／目的＝第19回ヒューマンコンピュータインタラクション国際会議にて研究発表
◆狩野みか講師（共通教育系）／出張先＝チェコ（7／17～7／22）／目的＝強相関電子系国際会議（SCES 2017）にて研究発表
◆丸山友希夫准教授（共通教育系）／出張先＝ポーランド（7／29～8／5）／目的＝第24回世界プロダクションリサーチに関する国際会議にて研究発表
◆田中隆治講師（共通教育系）／出張先＝カナダ（8／3～8／28）／目的＝カナダ語学研修「実践異文化理解」の引率および学生指導
◆穴井正洋課長補佐（教務課）／出張先＝カナダ（8／3～8／28）／目的＝カナダ語学研修「実践異文化理解」の学生引率・指導及び職員語学研修
◆神林靖准教授（情報工学科）／出張先＝台湾（8／18～8／22）／目的＝2017先進的情報技術国際会議にて組織委員会委員として参加
◆高瀬浩史教授（情報工学科）／出張先＝中国（8／20～8／26）／目的＝IoTを活用した農場管理システム開発の打ち合わせおよび現地調査
◆江藤香准教授（情報工学科）／出張先＝中国（8／20～8／26）／目的＝同前
◆高橋陽子講師（留学生別科）／出張先＝タイ（8／25～8／29）／目的＝マイニチアカデミックグループ主催　日本留学説明会における募集活動等
◆古閑伸裕教授（機械工学科）／出張先＝タイ（8／25～9／4）／目的＝マイニチアカデミックグループ主催　日本留学説明会における募集活動等／Jプロ学生の引率
◆大田健紘助教（電気電子工学科）／出張先＝アイスランド（8／29～9／4）／目的＝2017年演奏科学に関する国際会議での研究発表
◆伴雅人教授（創造システム工学科）／出張先＝ギリシャ（9／3～9／9）／目的＝欧州バイオマテリアル国際会議での研究発表
◆江藤香准教授（情報工学科）／出張先＝フランス（9／4～9／10）／目的＝知識ベース、知的情報とエンジニアリングシステムの国際会議にて研究発表

地域別教育懇談会開催日程

開催日	主催	開催会場	対象地域
9/9(土)	岩手県支部	平泉町・ホテル武蔵坊	岩手県
〃	千葉県支部	千葉市・バーディーホテル千葉	千葉県
〃	山梨県支部	笛吹市・ホテル春日居	山梨県
〃	長野県支部	長野市・ホテル信濃路	長野県
9/16(土)	北陸支部	富山市・富山電気ビルディング	富山県・石川県・福井県
〃	静岡県支部	静岡市・アイワンホール	静岡県
9/17(日)	新潟県支部	長岡市・長岡グランドホテル	新潟県
〃	茨城県支部	土浦市・ホテルマロウド筑波	茨城県
〃	栃木県支部	宇都宮市・ホテル丸治	栃木県
〃	近畿支部	尼崎市・ホテル「ホップイン」アミング	大阪府・兵庫県・京都府 奈良県・和歌山県・滋賀県
9/23(土)	青森県支部	青森市・青森国際ホテル	青森県
〃	秋田県支部	秋田市・秋田温泉さとみ	秋田県
〃	蔵王支部	山形市・悠湯の郷　ゆさ	山形県・宮城県
〃	福島県支部	郡山市・清稜山倶楽部	福島県
9/24(日)	群馬県支部	高崎市・高崎ビューホテル	群馬県
9/30(土)	西中国支部 東中国支部	広島市・ホテル法華クラブ広島	広島県・山口県・島根県 岡山県・鳥取県
〃	沖縄県支部	那覇市・沖縄県青年会館	沖縄県
10/1(日)	北海道(本部)	札幌市・KKRホテル札幌	北海道
〃	四国(〃)	高松市・高松シティホテル	四国
〃	九州(〃)	福岡市・サンライフホテル2・3	九州
10/8(日)	近県(本部)	大学	東京都・埼玉県・神奈川県
10/15(日)	東海支部	東京第一ホテル錦	愛知県・岐阜県・三重県

※日程および会場は都合により変更になる場合があります。詳細はご自宅に送付される案内をご覧ください。

宮代町だより 208号

第34回 宮代町民まつり

8月19、20日の2日間、進修館周辺で、第34回宮代町民まつりが開催されます。日中は、「ダンスフェスタ」や「どじょうつかみ」、「紙とんぼ」など、子供から大人まで楽しめるイベントが盛りだくさん。夕方から夜にかけては、華麗な衣装で踊る流し踊りや、迫力満点のみこしの巡行も行われます。ぜひお越しいただき、宮代の熱い夏をお楽しみください。

なお、8月10日まで、「流し踊り仮装コンテスト」の参加者を募集しています。詳しくは、広報みやしろ7月号をご覧ください。

編集後記

▼各都道府県には、シンボルとなる「県木」がある。▼「県木」はご存知だろうか？例えば北海道は「エゾマツ」▼東北六県はそれぞれの土地ゆかりの樹木を選んでいる。青森県は「ヒバ」岩手県は「ナンブアカマツ」宮城県は「ケヤキ」秋田県は「アキタスギ」山形県は「サクランボ」そして福島県は宮城県と同じ「ケヤキ」といった具合だ▼このように調べていくと、なぜか東京都、大阪府、神奈川県は、いずれも「イチョウ」を都府県の木にしていることに気が付く▼その理由は意外なところにあった。まさに、この三都府県は大都会だからとのことだ。イチョウは排気ガスなどの公害に強い丈夫な樹木である。そこで、大都市圏では街路樹として植えられることが多いため、最も目立ち、代表する樹木となったらしい▼この機会に、みなさんとかかわりのある都道府県の「県木」を調べてみたらいかがだろうか。【信】